GOOD DESIGN

ひらいずみから2つのG
佐々木さんと平泉中がグッドデザイン賞受賞

伝統工芸とモダンデザインの融合

グッドデザイン賞の表彰状を手にする佐々木さん

佐々木さんは県南部の南部鉄器・岩谷堂箪笥・秀衡塗の工芸品で組織するいわて県南エリア伝統工芸協議会とデザイナーの石田和人さんが共同で手掛ける平泉クラフト「ひらくら」の商品として小物入れを制作。同小物入れはヒバの木を素材に使用し、街並みをイメージしたデザインとなっています。木目を生かしたものや和紙を張り付けたものに、漆を塗り重ね温かみのある仕上がりになっています。

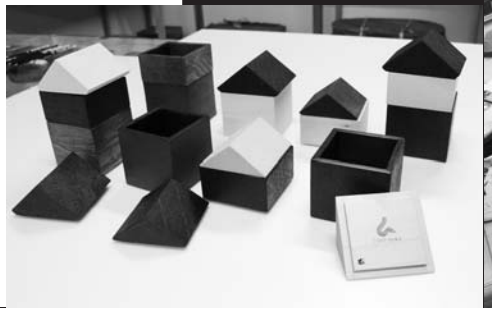
大小の2つの箱と蔵屋根と家屋根をモチーフにしたふたを組み合わせることで自分好みのバリエーションが楽しめます。

伝統工芸である秀衡塗の温かみのある漆の色合いとモダンなデザインの融合が高い評価を受け、今回受賞しました。

佐々木さんは「出来栄えにはとても満足。これからも人とのつながりを大切にしながら、伝統工芸を活かした新しいものづくりにチャレンジしたい」と抱負を話していました。

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザインの推奨制度「グッドデザイン賞AWARD2012」で、有限会社翁知屋の佐々木優弥さんが制作した小物入れ「roof town（ルーフタウン）」と平泉中学校3年生がワークショップで取り組んだ「みんなでつくるん台（仲良くたべられるん台・ステージ&イス台・収納できるんだどんなもん台）」が受賞しました。

この日は携帯ストラップに色付け中。細かい作業に細心の注意を払います（写真右）／今回賞を受賞した「roof town」（小物入れ）。大小2つの箱と2種類の屋根の組み合わせでいろいろなバリエーションが楽しめます（写真左）



受賞を記念し、指導いただいた講師や校舎工事関係者らと記念撮影

生徒たちがワークショップで議論を重ね、製作された3種類の台。用途によってさまざまなレイアウトに変身します。また3種類を組み合わせることでその使い道はさらに広がります。

台の妖精？「台くん」と「台子ちゃん」も祝福に駆け付けた？

ワークショップの取り組みが評価

平泉中3年生がワークショップで取り組んだ「みんなでつくるん台」は、新校舎の交流ホールの使い方を考えることから生み出されました。

交流ホールの使い方を考えるワークショップの中で、使用する家具を考え、それが実際に形となって実現しました。

「みんなでつくるん台」はイスやテーブルなどのように使い方が限定されたものではなく、いろいろな使い方をできる「台」としてデザインされました。今回の受賞は、ワークショップを通じ▽自分たちの考えたものが実際に形となって実現したこと▽その使い方やルールも決め、より良い使い方を決めたこと—などワークショップ全体の取り組みが高く評価されました。

祝う会を開催

11月29日には受賞式と3年生主催の祝う会が開催されました。会にはワークショップで講師を務めた東京大助教の尾崎信さん、東北大准教授の平野勝也さん、デザイナーの南雲勝志さん、台の製作に当たった平中OBの千葉哲也さん（丸貞工務）や工事関係者らが出席。日本デザイン振興協会の同事業部課長代理鈴木紗栄さんから表彰状が手渡されました。鈴木さんは「これまでの表彰の中で中学生が受賞したのは例がないと思う。みんなで一つの事に取り組み、形に残したことは、とてもすばらしいこと」と今回の受賞を讃えていました。

講師を務めた先生からも「みんなでいろいろ考えた結果が受賞に繋がった」「今回の経験は、これからの人生できっと役立つはず。自信を持って、それぞれの道を進んでほしい」など、これまでの活動やこれからの活躍を期待し、受賞を心から祝福していました。

生徒からはお世話になった講師や台を製作した千葉さんら一人一人に手づくりの感謝状が贈られました。

グッドデザイン賞の表彰状が手渡された（写真上）／講師らには手作りの感謝状が贈られた（写真下）

Interview インタビュー

菅原基史（すがわらもとし）さん

今回のワークショップでは、普段の中学校生活ではできないことを体験し、たくさんの個性的な講師の人たちと出会えたことが一番の収穫でした。

また大工の千葉さんが作った試作品を見たときはとても感動しました。後輩には、この台とともに平中のいい伝統を引き継いでいってほしいと思います。

回を重ねるごとに自分たちの考えが形になっていき「すごいなあ」と思いました。またとても貴重な体験をさせていただきました。

この体験を通じ、使う人の事を考え、作ることの大切さを学びました。

今回の受賞はとても光栄なことなので、台は末長く大切に使ってもらえたらうれしいです。

菅原彩佳（すがわらあやか）さん